

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

がん研有明病院消化器外科での研修を終えて

大阪労災病院外科

古川 陽菜

日本臨床外科学会国内外科研修プログラムにより、平成31年1月21日から2月17日までの期間、がん研有明病院消化器外科で研修をさせていただきました。このような貴重な機会を与えていただきました日本臨床外科学会 跡見裕会長、国内外科研修委員会 高山忠利委員長、ご推薦いただきました日本臨床外科学会大阪府支部長 弓場健義先生に深く御礼申し上げます。また今回の研修にあたり快く受け入れてくださいましたがん研有明病院院長の佐野武先生、消化器外科部長 渡邊雅之先生、胃外科部長 布部創也先生をはじめ胃外科の先生方およびレジデントの先生方には心から感謝申し上げます。とても充実した研修を送ることができました。誠にありがとうございました。

私は卒後11年目で一昨年に大学院を出て現在の職場である大阪労災病院の上部消化管外科のスタッフとして勤務しております。今までのレジデントや大学院生の立場と違い、治療方針や手術においても、上司とdiscussionをしながら自らdecision makingをしていく必要がある立場となり1年以上経過したところで今回の研修のお話をいただきました。研修先には、多くの手術件数を誇り、各分野で多くの指導者がおられるがん研有明病院を選択させていただきました。

研修期間中は胃外科の手術を中心に学ばせていただきました。胃癌に対する腹腔鏡下胃切除、開腹手術の他、GISTに対するLECSなど多くの手術を見学させていただきました。術者がスタッフであってもレジデントであっても、どの手術も同じ視野展開、手順でスムーズに手術が進行していました。定型化された視野展開は学ぶべきところが多く、定型化し共通認識を持つことの重要性を再認識しました。早期胃癌だけでなく、進行胃癌に対しても臨床試験を組み、ルールに則って腹腔鏡手術を導入しているところも見習うべきところだと感じました。またタイミングよく、研修期間中にda Vinciの導入を見学させてもらうことができたのはとても貴重な経験でした。幸い、研修期間中に2件のロボット手術を見ることができました。手術以外でも腹腔鏡下噴門側胃切除セミナーにも参加させていただき、ドライラボで噴門側胃切除の上川法再建を体験させていただきました。上川法再建は難易度が高い再建法ですが、定期的にドライラボで練習することでレジデントの先生方は術者へ至るまでの距離を縮めておられるようで、日々の練習の大事さを再認識しました。

また、毎週月曜日にはCancer boardが開かれ、症例検討やグループ持ち回りで臨床データの報告があり、ハイボリュームセンターならではの最新の知見が得られ、非常に興味深く勉強になりました。週2回の消化器外科カンファレンスでは、1週間分の術前術後の全症例が検討されます。数多くの手術症例を簡潔にまとめたスライドでプレゼンテーションされ、また、厳しい質問に対しても、自施設データや文献の検索も含め回答されており、非常に効率的かつ有意義なカンファレンスであると感じました。内科外科合同カンファレンスでは、内視鏡医、外科医、化学療法医で手術適応症例について検討されており、各専門医の意見を交えながら治療方針について共通の認識を持って診療にあたっていることが実感されました。胃外科では週1回リサーチカンファレンスが開かれており、レジデントの研究テーマの発表および検討が行われます。周囲の意見を聞きながら、研究内容がブラッシュアップされていく非常に良いカンファレンスだと思いました。

4週間の研修期間は、気付くとあっという間に終了を迎えてしまいました。それだけ学ぶものが多い

充実した研修であったからだと思います。この日本臨床外科学会の国内臨床研修では、様々なことを学び・経験することができ、私にとって大きな財産となりました。今後、この研修で得たものを還元し、活かせるようにしていきたいと思います。

最後になりますが、本研修にあたり快く送り出してくださった当院外科の長谷川順一外科部長、スタッフ、レジデントの先生方にこの場をお借りして心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。